

# 『Mind Charging』

第 187 回 発行：入試広報室 発行日：令和 3 年 1 月 14 日

## ルイス・キャロルの名言



### Who in the world am I? Ah, that's the great puzzle!

私は一体誰か？ああ、それは大いなる謎だ。

あの有名な『不思議の国のアリス』の作者であり、実はルイス・キャロルという名前はペンネームだそうです。本名は『チャールズ・ラトウィッジ・ドジソン』という名前の人物です。ファンタジー性溢れる物語を生み出す発想力、数学者であり論理学者でもある非常に高い能力と、間違いなく“解き明かす”ことが得意なはずのルイス・キャロルらしい言葉だと思います。

今回の言葉を発した状況を考えると、自己紹介を求められたのだらうということが推測されますが、確かに自己紹介だけでは自分の『全て』を伝えることは不可能だと思います。もちろん面接や挨拶の時の自己紹介では、求めた側としても全ての説明を求めているわけではないと思うのですが、初対面の人との最初のコミュニケーションになるとと思いますので、より詳しく自分のことが説明できるよう準備しておく必要はあると思います。そういう意味では今回の言葉のような答え方をしたルイス・キャロルの狙いは、何一つ自分のことを説明しないまま相手に自分に対する興味を持たせるという『謎解きが大好きな人が出すなぞなぞ』ということだったのかもしれませんが。

今回のコラムを書きながら、『自分の全てを説明できるだらうか・・・』と考えましたが、“自分のことは人が評価する”と教わってきた私は、自分のことでありながら全てまでは知らない気がします。おそらく自覚していない“クセ”のようなものもあるはずですし、もしかしたら驚くような才能が眠っているのかもしれませんが。人とのコミュニケーションの中で、自分に興味を持ってもらうことは“大前提”と言えます。そういう意味では自分で自分に興味(期待)が持てるような成長を遂げることは、素晴らしい『セルフブランディング』と言えるのかもしれませんがね。(編集委員：入試広報室 鈴木)

ルイス・キャロル(Lewis Carroll [ˈluːɪs ˈkæərəl], 1832 年 1 月 27 日 - 1898 年 1 月 14 日)は、イギリスの数学者、論理学者、写真家、作家、詩人である。本名はチャールズ・ラトウィッジ・ドジソン(Charles Lutwidge Dodgson [ˈtʃɑːlɪz ˈlʌtwɪdʒ ˈdɒdʒsən])で、作家として活動する時にルイス・キャロルのペンネームを用いた。(Wikipedia 参照)